「万国之津梁」沖縄をめざして

研究会通信

第８号／2017 年１月６日
「沖縄・国際物流拠点形成研究会」
（再開港湾研究会）
連絡先／民進党沖縄県連　〒900-0022
那覇市樋川 1-6-12　電話 098-996-5115

❒沖縄県など県内の関係先と関係省に『提言』を提出し具体化を要請

――提言内容の推進へ「県民会議」の発足を

明けましておめでとうございます。

本研究会は昨年 11 月、『沖縄の国際物流拠点形成をめざす提言』を取りまとめ、沖縄県をはじめ県内の関係先に（11 月 29 日～12 月 1 日）、また、国の関係省の内閣府沖縄担当・環境省自然環境局・国土交通省港湾局・財務省主税局などに（12 月 7 日）、それぞれ『提言』をお渡しし、提言内容の具体化、その実現を要請致しました。

『提言』では、基地返還跡地の活用も念頭に置いた国際物流拠点形成に向けての県のリーダーシップによる取組みや東アジアの主要港並みの税優遇措置・規制緩和策などを提起していますが、とくに次の 6 点を要請。

①沖縄県民が一致結束して国際物流拠点形成に取り組んでいく
②東アジア主要港並みの税制優遇・規制緩和策を思い切って講じる
③那覇港と中城湾港のすみ分けと両港の連携及び中城湾港の整備を促進する
④「やんばる」の世界自然遺産登録をにらみ本部港のさらなる整備を進める
⑤自然と共生した国際港湾都市づくりという観点を重視する
⑥関係する人財（材）の育成を急ぐ

これに対し**沖縄県企画部の安慶名均・企画調整統括監**からは「国際物流形成に向けて『提言』を有難く受け止めたい」と謝辞。

内閣府の槌谷裕司・沖縄振興局長は「安倍政権は日本とアジア・太平洋地域の発展に寄与する 21 世紀の『万国津梁』の形成を目指しており、沖縄の地理的優位性を活かす振興策を進める」と意気込みを示しました。

また**環境省自然環境局の奥田直久・自然環境計画課長**は「世界自然遺産と港湾整備を結ぶトータルな提言に感謝したい。西表の石西礁湖（せきせいしょうこ）の航路整備のように国交省との連携が重要となっているが、沖縄では環境に配慮し自然と共生した持続可能な観光の拠点にしなければならない」と強調し、「やんばるの世界自然遺産は琉球・奄美という括りであり、沖縄と奄美の連携が重要。自然の保全のルールづくり、地元との合意に力を入れている」とのことでした。

左・花城正樹民進党県連代表、右・県企画部の安慶名均企画調整統括監（11月30日、沖縄県庁で「提言」を手交）

さらに**国土交通省港湾局の菊池身智雄・港湾局長**は「よく調べた調査報告、提言であり、港湾行政を進めるうえで感謝している」と述べ、「那覇港は最近、クルーズ船の来航が急増、2020 年に向けてさらに増えると見られ物流と客船の調整が課題。急ぎクルーズ船の岸壁の整備等で補正予算を措置」「臨海道路の供用も間近。那覇港は抜本的な対策が必要だ」「本部港は大型クルーズ船の入港をにらんで整備を急いでいる」との報告を受けました。

「推進県民会議」は意欲的な試み

本研究会が提唱している「推進県民会議」の設置について、**菊池港湾局長**は「意欲的な試みで、全国的にも例がないのではないか」「沖縄は振興というのでなく、経済を再生していくという観点が大事。見通しを持って港湾などを早く整備したい」と強調されました。

このほか、民進党の国会議員へのご説明の場を設けましたが、今後は他の会派の議員はもちろん県民各界各層の方々とも『提言』の内容をめぐる意見交換を進めたいと思います。

❒『提言』説明会を予定

☆日　時　~~1 月 21 日~~ 2 月 25 日（土）14 時
☆会　場　（未定）※追ってご案内します。
☆内　容　①『提言』の説明と意見交換
②報告／仮称「沖縄の家」構想の準備状況――中城湾港・志布志港の定期航路を活かす事業
③その他

◆◇◆◇◆